

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校八束学園前期課程

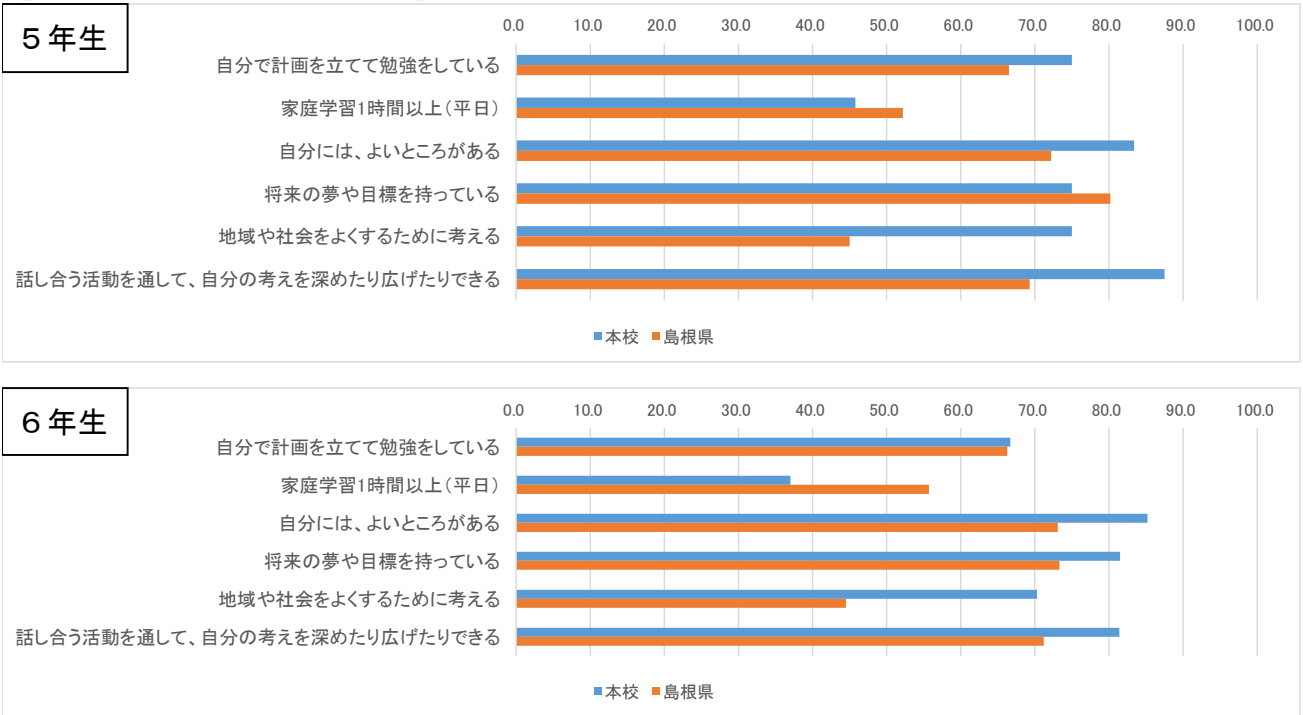
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○漢字は全国平均程度、定着している。 ●話し合いの内容を聞き取って覚えたり、話し手の工夫を捉えたり、司会者の意図を読み取ることに課題がみられる。 ●作文の問題では、文の長さに対する条件や2段落構成で書くという条件に合わせて書くことに課題がみられる。	○配当漢字の読みに関する習得率が高い。また、文章の前後の関係に留意して意味を考えながら正しい漢字を書く力も定着している。 ○物語文において、文中から心情や情景を読み取ることができている。 ●敬語の文類や正しい使い方の理解があまりできていない。 ●条件に沿って、段落に分けて考えをまとめて表現することが難しい。
算数	○基本的な四則計算は定着しつつある。 ●数量が大きくなる、計算手順が多くなる等、計算が複雑になると、計算ミスが増える。 ●文章読解力が低いため、題意を読み取ることができにくい。	○基礎的内容、活用的内容ともよく理解できている。 ○「対称な図形」「面積」「体積」等、図をもとに思考する問題の正答率が高い。 ●「比と比の値」等、抽象的思考を要する問題では、正答率が低い。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○自己肯定感が高く、地域を良くすることを考えるという項目についても肯定的な回答が多い。下学年からの地域学習の積み重ねの成果といえる。 ○話し合いを通して、学習を深められた経験を多く積んでいるため、話し合う活動に自信をもっている。 ●家庭学習の時間は、島根県の平均よりも短い。学園全体で学年×10分＋10分の家庭学習時間を目指して取り組んでいるので、これを徹底したい。宿題の返却については専科教員が協力したり、タブレットドリルを活用したりして、担任が負担感をもたないような方法を考えていく。	○自己肯定感が高く、将来に向けての夢や目標などをもっている児童が多い。 ○地域や社会をよくするために考えている児童が多い。下学年からの地域学習の積み重ねの成果といえる。 ●家庭学習の時間を1時間以上勉強している児童が少ないが、自分で計画を立てて勉強している児童の割合は高い。後期課程に向けて1時間以上勉強していくための計画の立て方を指導する必要がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】

5年生

25

名

6年生

25

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)